

袋井市こども計画（素案）パブリックコメントの結果について

1 実施状況

期間：令和6年12月20日（金）～令和7年1月20日（月）

閲覧：教育会館1階子ども未来課窓口、市役所3階情報公開コーナー、
浅羽支所市民ホール、総合健康センター1階、市ホームページ

2 提出意見 7人14件

No.	意見・提言等の概要	市の考え方
1	全世界が目標としているSDGsという視点を取り入れながら子供達が未来について主体的・対話的に考えられるように、計画の中に「SDGs」という視点を盛り込んで欲しい。	【基本理念】 SDGsの考え方も踏まえ、基本理念の文中に「みんなで支え合い誰一人取り残すことなく、すべてのこどもが将来にわたって幸せな状態で生活を送ることができ、」と表現している。本計画で掲げる施策や取組を推進することにより、SDGsの達成に取り組んでいく。
2	ライフステージの区切りで取りこぼしたり、必要な支援が届かなかったりすることを懸念している。区切りを補完するのりしろ部分の体制づくりが必要だと感じる。	【Ⅰ-1-(1)、Ⅰ-3-(4)、Ⅱ-4-(11)、Ⅲ-2-(9)】 すべてのこどもとその家庭、妊産婦に対し切れ目のない支援を提供し、包括的な相談支援等を行う「こども家庭センター」を設置する。センターを中心に福祉・保健・教育などの関係機関が連携し、個々の状況に応じた切れ目のない支援に努める。
3	（不登校や発達障害を抱えているこどもやその親は）高校生になってからは、こども支援室以外で相談出来る窓口がなく、また高校を卒業したらそれも出来なくなってしまう。「すべてのこどもが将来にわたって幸福な生活を送ることができる社会」の実現を目指すのであれば、親子で継続して相談や支援していただける窓口や機関が必要不可欠ではないかと思う。	
4	切れ目のない支援について、保育現場では、母子保健と初等教育との連携を深めたいが、初等教育の連携は進んでいるが、母子保健とは溝が残ったままのように感じる。センター設置ではなく、既存の仕組みの中で、それぞれが全体の問題点について共有して同じ視点で連携していけると良い。また、子どもの発達に未広がりのため、乳幼児期に各種支援を入れていくことで狭い範囲で済むのではないかな。もう少し乳幼児期に重点的な施策が計画されると良いと思う。	【Ⅰ-1 文中、Ⅱ-3-(1)】 すべてのこどもとその家庭、妊産婦に対して切れ目のない支援を提供し、包括的な相談支援等を行う「こども家庭センター」を中心に、関係機関と連携しながら、相談支援の充実を図る。また、発達に特性のあるこどもについては、乳幼児健診等における早期発見に努めるとともに、ライフステージや個々の状況に応じた支援をしていく。

No.	意見・提言等の概要	市の考え方
5	養育支援訪問について、発達に気にかかる子どもの相談がつながりやすいように子どもにかかわる機関の連携強化や相談技術の向上なども必要と考える。	【Ⅰ-〔こ〕1-(1)、-(17)】 養育支援訪問については、保健師等の専門職が訪問し、養育に関する助言等を行っている。相談支援体制については、こども家庭センターが中心となり福祉・保健・教育などの関係機関が連携するとともに、相談支援に関する研修等を実施し、スキルの向上に努める。
6	産後うつや産後クライシスの問題から離婚率の増加につながっている問題がある。マタニティスクールでの周知や父親の家族の中での役割について啓発が必要と考える。	【Ⅰ-〔こ〕1-(6)、Ⅲ-3-(2)】 マタニティスクールにおいて夫婦で協力して子育てができるよう、妊娠・出産・育児に関する知識の普及に努めるとともに、共育ての推進や男性の家事・育児への主体的な参画促進など男女共同参画意識の醸成や子育て家庭に優しい職場環境となるよう普及・啓発活動等に取り組む。
7	安易なサービス拡大が家庭の力や主体性を奪うこともあるので、安易にニーズがあるから時間を伸ばす、量を増やすのではなく、こども目線から見て、本当に望ましいのかどうかを見極めていくことが必要だと思う。また、働き方を変えて、余力を生み出していくような施策は市単体では難しいかもしれないが、市民の価値観を変えていくような施策については一定程度できることはあると思う。	【Ⅰ-〔こ〕2 文中、Ⅲ-2-(1)】 多様化するニーズを把握するとともに、ライフステージに応じて必要な支援やサービスが提供できるよう努める。また、「親スキルアップ講座」や「子ども理解講座」の開催など、こどもの発達段階に応じた子育てと親としての育ちについて学ぶ機会や情報を提供することにより家庭の教育力を高めていく。
8	ICT を活用した個別最適化に取り組むとのことであるが、まだまだ活かし切れていないように思える。ICT 活用が充実するまでの移行期においてはマンパワーも重視し、習熟度別の学習環境を整備するなどして学習に困り感を抱いている児童生徒への最適な教育体制を充実させて欲しい。	【Ⅰ-〔学〕1-(3)、-(4)】 ICT を活用することにより、教師は、こども一人ひとりがどこにつまずき、どのような学びをしているか把握し、指導の個別化を図っている。また、こどもが個別最適な学びと対話や議論を通して協働的な学びの繰り返しにより、学びを深めていけるようより一層努めていく。

No.	意見・提言等の概要	市の考え方
9	「こどもの学びを深める取組の充実」の中にも、外国人児童への直接的な支援だけでなく、児童生徒全体の学びの中で（特に学校教育において）国際交流などによる多文化共生を推進するべきだと思う。	【Ⅰ-[学]1-(3)、Ⅰ-[学]3-(2)】 教育活動全体を通し、自他を大切に する人権教育を基盤としながら多文化 共生の意識や姿勢を育むことに取り 組んでいる。また、コミュニケーション をとる楽しさを味わえるよう英語力 にも力を入れ、さらに総合的な学習 の時間や外国語の授業等において、 様々な国籍の人と交流するリアルな 体験活動を行う等、学校ごとに創 意工夫をこらしながら取り組んで いる。
10	デジタルメディアの危険性の啓発と家庭教育について、何か施策が必要のように思いますので、盛り込んで頂いた方が良いと思いました。	【Ⅰ-[学]1-(14)を追加、Ⅱ-5-(2)修正】 児童生徒や保護者に対する小学校 での「情報モラル講座」、中学校 での「ネット依存講座」ほか、情 報モラルに関するリーフレットの 配布等、デジタル技術のメリット を活用しつつ、インターネット やゲーム、SNSの利用や依存の 危険を理解し適切な判断をしてい けるよう、学校、家庭、地域と ともに取り組む。
11	多くの自治体でフリースクールへの補助金制度を導入している。袋井市におきましても、不登校の児童生徒とその家族を支援する学校での学びの場の構築、COCOLO プランにあるような親支援を検討して欲しい。	【Ⅰ-[学]3-(3)、-(4)】 すべての児童生徒にとって、魅 力ある学校づくりを推進すると ともに、不登校の児童生徒が 安心して学べる居場所の拡充 として教育支援センター「ひ まわり」で不登校の児童生徒 が安心して過ごすことので きる居場所づくりに努め、 各校と連携し、個々の状況 に合わせた学習支援を行っ たり、カウンセラーによる 相談支援を行っている。ま た、いわゆる引きこもりの 状態にある児童生徒やその 家族に対して家庭支援員 によるアウトリーチ型の 支援を推進する。

No.	意見・提言等の概要	市の考え方
12	近年、不登校児童生徒の増加が大きな課題となっている。教員の研修によるスキルアップや、通級指導教室等による支援でも対応されていると思うが、支援員の増員などによって直接的でよりきめ細やかな支援を充実させて欲しい。	【Ⅰ-[学]3-(5)、Ⅱ-3-(7)】 個々のこどもの実態に応じて、特別支援学級や通常の学級においても支援員をできる限り配置し、担任と連携しながら支援の充実に努めている。また、不登校児童生徒等の居場所の一つとして、全小中学校に教育支援センターを順次設置し、よりきめ細やかな支援を行っていく。
13	多様な遊びや体験についてソフト面での施策を中心に取りまとめているありますが、インフラ整備の計画とセットで明示していただくと本市が子育てに魅力的な街であることがさらに分かりやすいと思う。	【Ⅱ-1】 本計画では、多様な遊びや体験についてソフト事業を中心に記載しており、ハード整備としては、袋井市こども交流館あそびの杜整備事業を記載した。子育て施策や子育てに魅力的な街のPRについては、整備事業の周知をはじめ、子育てに関するチラシやパンフレットなど様々な手段で周知していく。
14	こども支援に関して、親自身が学べる場所や時間を提供することも大切だと考える。子育ての仕方、価値観、こどもとのコミュニケーションの仕方、愛情の示し方、親の子育てに見る物事の見方、その他いろいろな事柄を学ぶところや時間が必要だと思う。	【Ⅲ-2-(1)、-(2)】 「親スキルアップ講座」や「子ども理解講座」の開催など、こどもの発達段階に応じた子育てと親としての育ちについて学ぶ機会や情報を提供するとともに、「家庭教育講座」において、乳幼児期・少年期における親の役割と家庭教育のあり方など学ぶ機会を提供していく。